

2023年11月15日

PGF生命
 プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル
 生命保険株式会社

PGF生命、『おとなの親子』の生活調査 2023 を実施 -40～69 歳の男女を対象とした親子関係に関するアンケート-

PGF生命（プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社、代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充）は、2023年9月29日（金）～10月2日（月）の4日間、70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女を対象に『おとなの親子』の生活調査 2023」をインターネットリサーチで実施し、有効サンプル2,000名の集計結果を公開しました。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

人生100年時代を迎え、成人後の親子関係もより長く続いていきます。このたびPGF生命は、内閣府が定めた「家族の日」（2023年11月19日（日））にちなみ、高齢の親がいる子どもに『おとなの親子』の生活について聞いたところ、多様な生活実態や生活意識が垣間見える結果となりました。



トピックス1 :『おとなの親子』の生活あるあるエピソードを調査！ “やはり親子だな”と感じることは？ 男性回答1位「年齢を重ねて性格が似てきた」、女性回答1位「食の好みや好きな味付けが同じ」

『おとなの親子』の関係には、年齢を重ねるにつれて深まる絆と共通点がたくさん存在します。アンケート調査の結果から、私達が共感し、微笑まずにはいられない生活の中でのエピソードが浮かび上がってきました。

親にふだん接するなかで、“やはり親子だな”と感じることを聞いたところ、1位は「食の好みや好きな味付けが同じ」、2位は「年齢を重ねて性格が似てきた」、3位は「年齢を重ねて行動パターンが似てきた」。男性では「年齢を重ねて性格が似てきた」、女性では「食の好みや好きな味付けが同じ」が1位でした。

◆ 親にふだん接するなかで、“やはり親子だな”と感じること （複数回答形式）

全体	男性
1 食の好みや好きな味付けが同じ (14.7%)	1 年齢を重ねて性格が似てきた (13.3%)
2 年齢を重ねて性格が似てきた (14.5%)	2 食の好みや好きな味付けが同じ (10.5%)
3 年齢を重ねて行動パターンが似てきた (10.4%)	3 年齢を重ねて行動パターンが似てきた (9.4%)
4 年齢を重ねて生活習慣が似てきた (10.3%)	
5 年齢を重ねて価値観や人生観が似てきた (8.8%)	
怒り口調が同じ (8.8%)	
	女性
	1 食の好みや好きな味付けが同じ (18.8%)
	2 年齢を重ねて性格が似てきた (15.7%)
	3 年齢を重ねて行動パターンが似てきた (11.4%)

トピックス2 :理想の『おとなの親子』だと思う、芸能人親子は？

1位「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」2位「関根 勤さん&関根 麻里さん」

自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子（1組）を聞いたところ、トップは「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」。親子揃ってテレビ番組やイベントなどに出演することが多く、会話からも仲の良さが自然と伝わってくると感じる人が多いのではないのでしょうか。2位は「関根 勤さん&関根 麻里さん」、3位は「ヒロミさん&小園 凌央さん」でした。

◆自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子
(1組) (自由回答形式) ※上位5位までを表示

★1	高橋 英樹 & 高橋 真麻	(156名)
★2	関根 勤 & 関根 麻里	(83名)
★3	ヒロミ & 小園 凌央	(34名)
4	渡辺 謙 & 杏	(25名)
5	明石家 さんま & IMALU	(18名)

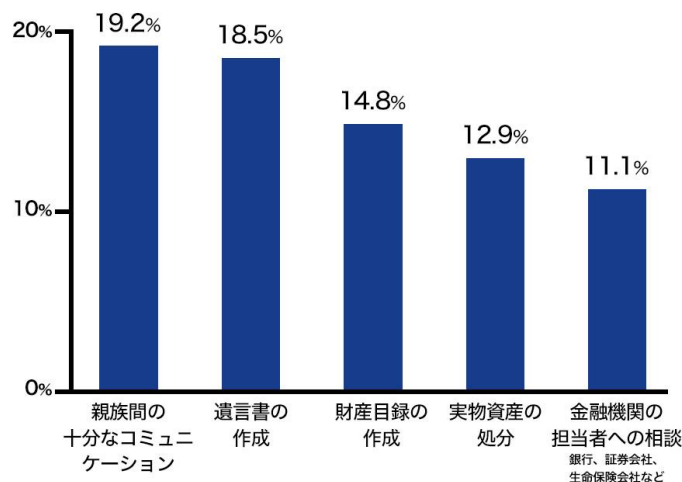
トピックス3 :親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいことは？

1位「親族間の十分なコミュニケーション」2位「遺言書の作成」3位「財産目録の作成」 4位「実物資産の処分」5位「金融機関の担当者への相談」

円満な相続のためには、事前にしっかりと準備をしておくことが欠かせません。

親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいことを聞いたところ、1位は「親族間の十分なコミュニケーション」、2位は「遺言書の作成」、3位は「財産目録の作成」、4位は「実物資産の処分」、5位は「金融機関の担当者への相談」でした。

◆親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいこと
(複数回答形式) ※上位5位までを表示



次頁には、トピックスには収まりきれなかった調査内容項目をハイライトで公開！さらに、4頁目からは、調査の結果詳細を図解解説しています。『おとなの親子』の生活意識や実態をチェックしてみてください。

<調査結果ハイライト>

第1章：『おとなの親子』の生活意識・生活実態

- 『おとなの親子』のコミュニケーションツールは「メール・LINE」より「電話」が主流
- 『おとなの親子』のコミュニケーション頻度
別居親子の2組に1組が「電話を月に1回以上する」、「メールまたはLINEはしない」
同居親子の5組に1組が「年に1回以上一緒に旅行する」、「週に1回以上親子喧嘩をする」と回答
- 「月に1回以上、親に会いに行く」別居している親がいる人の4割強
- 親に言われた忘れられない言葉とそのシチュエーションとは？ 愛情あふれる言葉が多数

第2章：お金に関する意識・実態

- 「親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない」7割強、40代の子では8割強に
- 親の資産の内容を知らない理由 1位「聞きづらい」、60代では「きょうだいに任せている」が1位
- 「親から金銭面の支援を受けたことがある」4割半
支援を受けたことがあるもの 1位「結婚費用」2位「生活費」3位「不動産購入時の頭金」、
支援額（平均）は「結婚費用」132万円、「生活費」143万円、
「不動産購入時の頭金」495万円、「自動車購入時の頭金」131万円、「子どもの教育資金」175万円
- 「親に金銭面の支援をしたことがある」2割半

第3章：親の介護についての不安

- 親の今後やサポートについて不安やリスクを感じる 1位「健康状態・病気」
- 親の介護で不安なことは？ 1位「精神的負担」2位「体力的負担」3位「介護と仕事の両立」
- 「親の介護に備えて具体的な準備をしている」40代の子では3割半、60代の子では5割半に
具体的にやっていることは？ 1位「きょうだい間での話し合い」2位「親の希望の確認」
- 親の介護について、事前に親に準備しておいてほしいこと
1位「断捨離」2位「介護に関する希望を伝えてほしい」3位「介護費用を蓄えておいてほしい」

第4章：親からの贈与・相続に関する意識・実態

- 「親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがある」
40代・50代では1割半、60代では2割強に
- 「きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ない」約4割
- 「親の資産が分割しづらい自宅などに偏っている」2割半
- 「争族に陥ると心配している」相続対策をしていない人の6人に1人
- 親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいことは？
1位「親族間の十分なコミュニケーション」2位「遺言書の作成」3位「財産目録の作成」
40代女性では「金融機関の担当者への相談」が高い傾向

第5章：理想の『おとなの親子』

- 実際の親子関係を表す漢字1字 1位「絆」2位「信」3位「愛」
- 理想の『おとなの親子』だと思う、芸能人親子
1位「高橋英樹さん&高橋真麻さん」2位「関根勤さん&関根麻里さん」
- “理想の父親”1位は「高橋英樹さん」、 “理想の母親”1位は「吉永小百合さん」
- これからしたい親孝行 1位「旅行をする」2位「会いに行く・顔を見せる」3位「介護をする」

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。

第1章：『おとなの親子』の生活意識・生活実態

■ 『おとなの親子』のコミュニケーションツールは「メール・LINE」より「電話」が主流

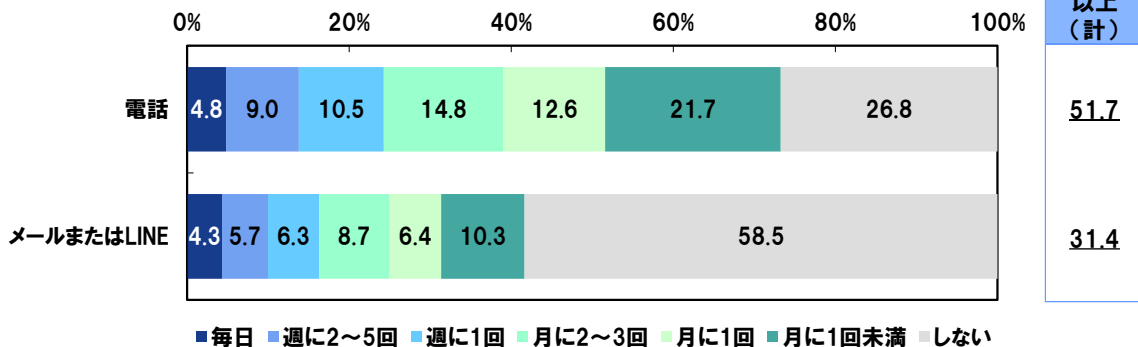
「電話を月に1回以上する」は約半数、「メールまたはLINEを月に1回以上する」は約3割

70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女2,000名（全回答者）に、親との生活について質問しました。

まず、全回答者（2,000名）に、親とのコミュニケーションの頻度を聞いたところ、【電話】は「しない」（26.8%）が最も多く、「月に1回未満」（21.7%）、「月に2～3回」（14.8%）が続き、「毎日」電話する人も4.8%いました。「月に1回」までを合計した「月に1回以上」は51.7%となりました。また、【メールまたはLINE】は「しない」（58.5%）が最も多く、「月に1回以上」は31.4%となりました。

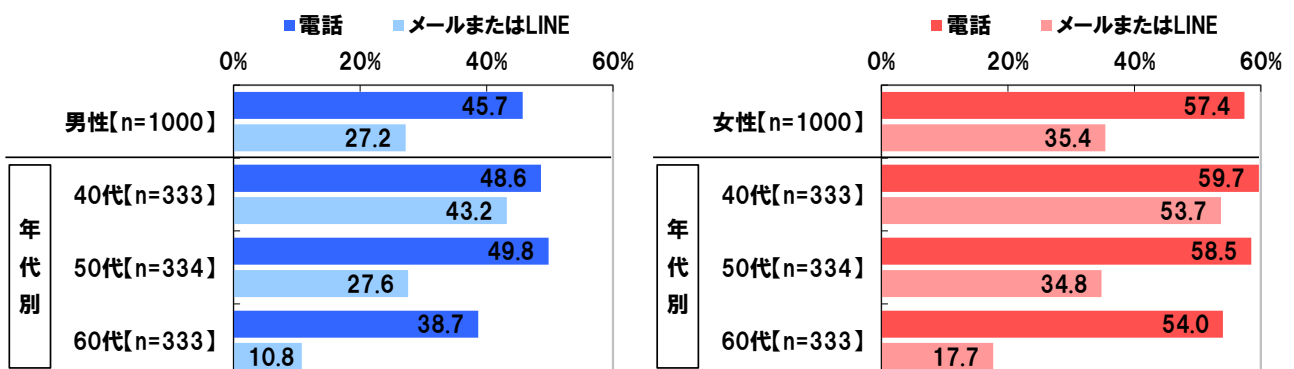
【電話】と【メールまたはLINE】を比較すると、「月に1回以上」と回答した人の割合は【電話】では51.7%と、【メールまたはLINE】（31.4%）より20.3ポイント高くなりました。スマートフォンが普及しているものの、『おとなの親子』の間では、長年の使用に慣れている電話が主なコミュニケーションツールとなっているようです。

◆親とのコミュニケーションについて、親とどのくらいの頻度で行っているか（各単一回答形式）
全体【n=2000】



男女・年代別にみると、「月に1回以上」と回答した人の割合は、【メールまたはLINE】では男性・女性ともに40代（男性43.2%、女性53.7%）と60代（男性10.8%、女性17.7%）で30ポイント以上の年代差が開きましたが、【電話】では40代（男性48.6%、女性59.7%）と60代（男性38.7%、女性54.0%）で10ポイント未満の年代差にとどまりました。

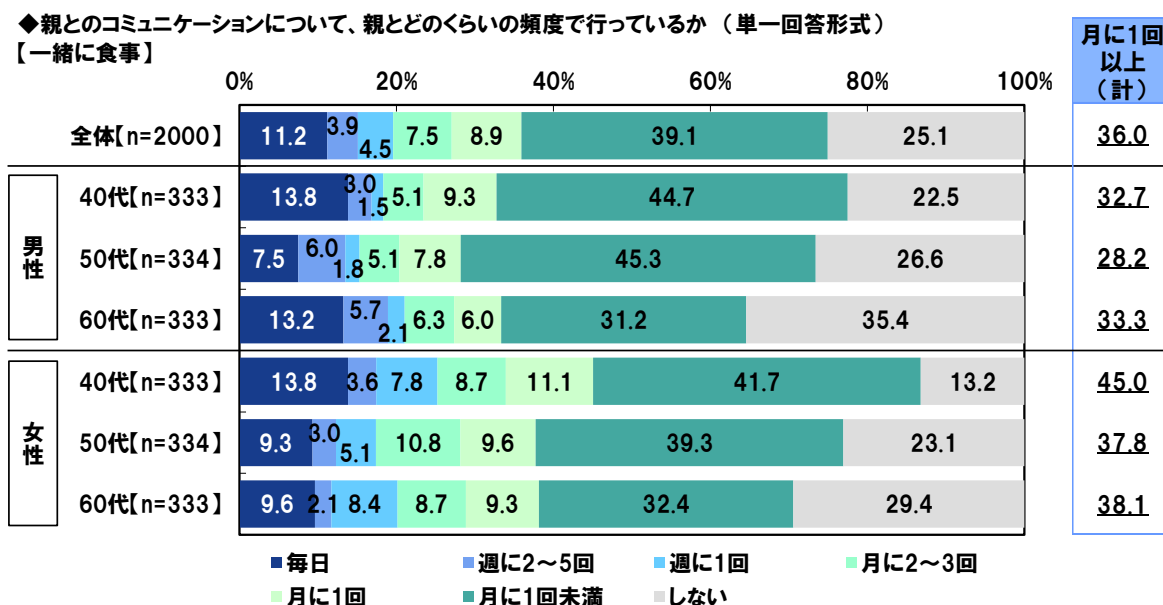
◆コミュニケーションの頻度を『月に1回以上』と回答した人の割合



- 「月に1回以上、親と一緒に食事をする」40代女性では4割半
- 「親と一緒に旅行をする」は『おとなの親子』の3組に1組

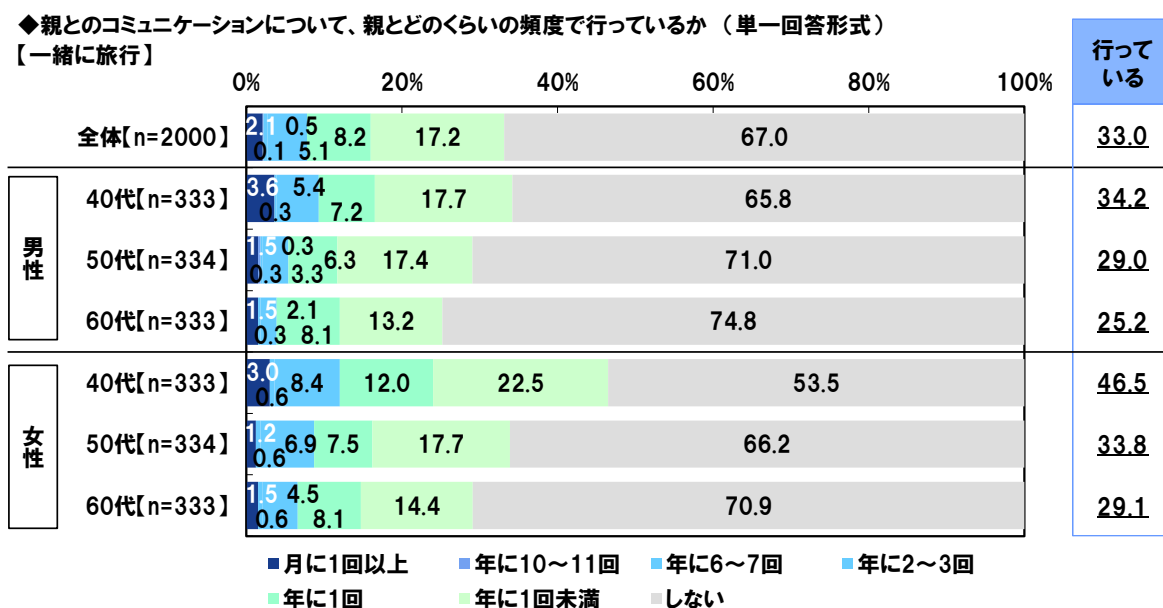
【一緒に食事】では、「月に1回以上」は36.0%、「しない」は25.1%となりました。定期的と一緒に食卓を囲み、会話を楽しむ機会を設けている親子は少なくないようです。

男女・年代別にみると、「月に1回以上」と回答した人の割合は、いずれの年代でも男性と比べて女性の方が高く、40代女性が45.0%と最も高くなりました。



【一緒に旅行】では、「行っている」は33.0%、行っていない人（「しない」）は67.0%となり、「行っている」人のなかでは、「年に1回未満」（17.2%）や「年に1回」（8.2%）などが多くなりました。

男女・年代別にみると、「行っている」と回答した人の割合は、40代女性（46.5%）が最も高くなりました。



■ 『おとなの親子』のコミュニケーション頻度

別居親子の2組に1組が「電話を月に1回以上する」、「メールまたはLINEはしない」

同居親子の5組に1組が「年に1回以上一緒に旅行する」、「週に1回以上親子喧嘩をする」と回答

■ 「月に1回以上、親に会いに行く」別居している親がいる人の4割強

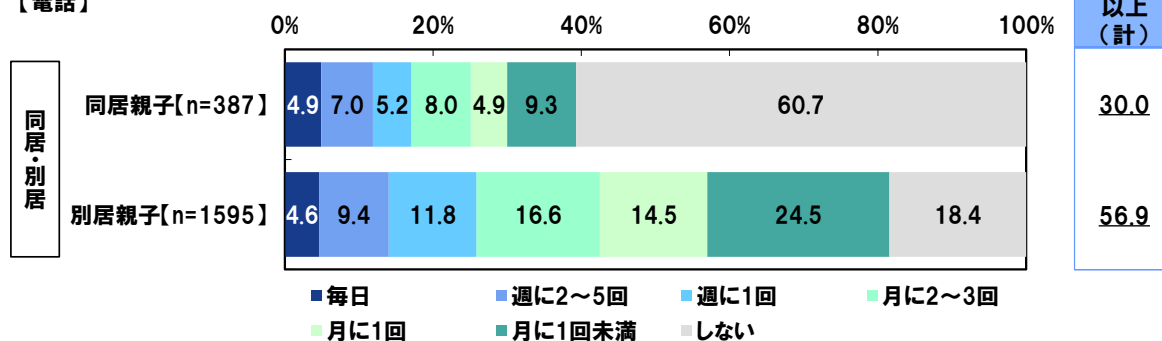
ここで、同居親子と別居親子(※)についてみると、別居親子では【電話】を「月に1回以上」する人の割合は56.9%、「しない」人の割合は18.4%、【メールまたはLINE】を「月に1回以上」する人の割合は32.8%、「しない」人の割合は55.7%となりました。

※同居親子：別居の親がいない同居している親子。親の一方がいない場合を含む。

別居親子：同居の親がいない別居している親子。親の一方がいない場合を含む。

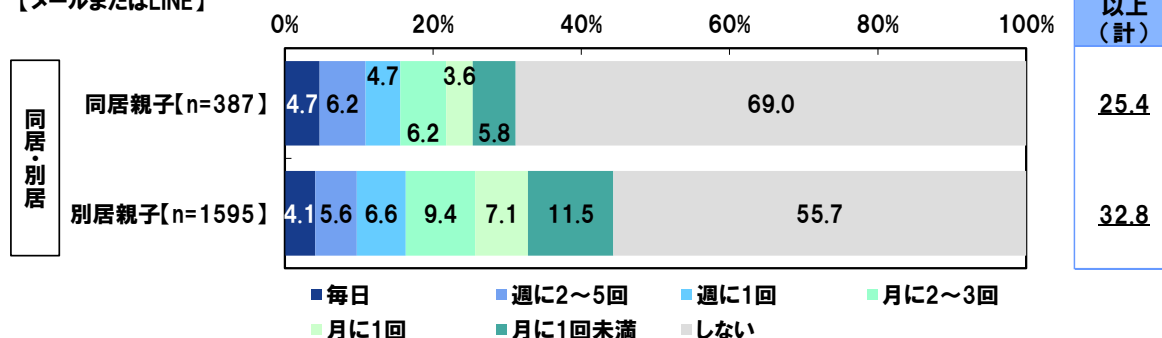
◆親とのコミュニケーションについて、親とどのくらいの頻度で行っているか（単一回答形式）

【電話】



◆親とのコミュニケーションについて、親とどのくらいの頻度で行っているか（単一回答形式）

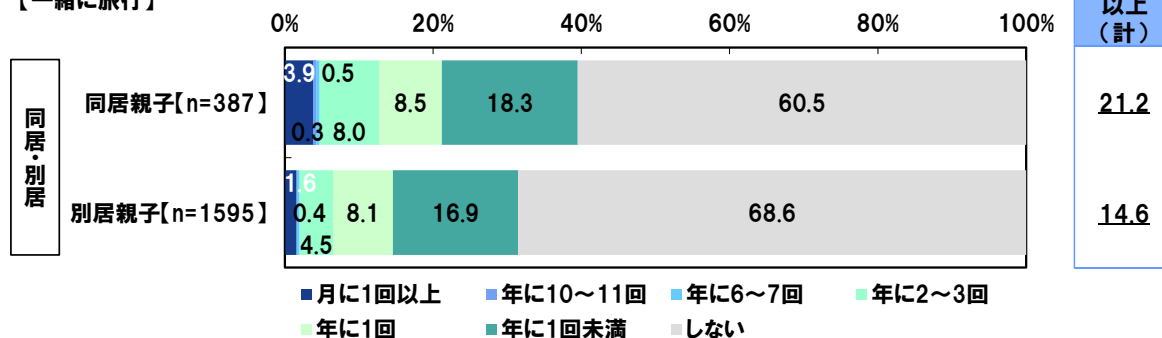
【メールまたはLINE】



他方、同居親子では、【一緒に旅行】を「年に1回以上」する人の割合は21.2%となりました。

◆親とのコミュニケーションについて、親とどのくらいの頻度で行っているか（単一回答形式）

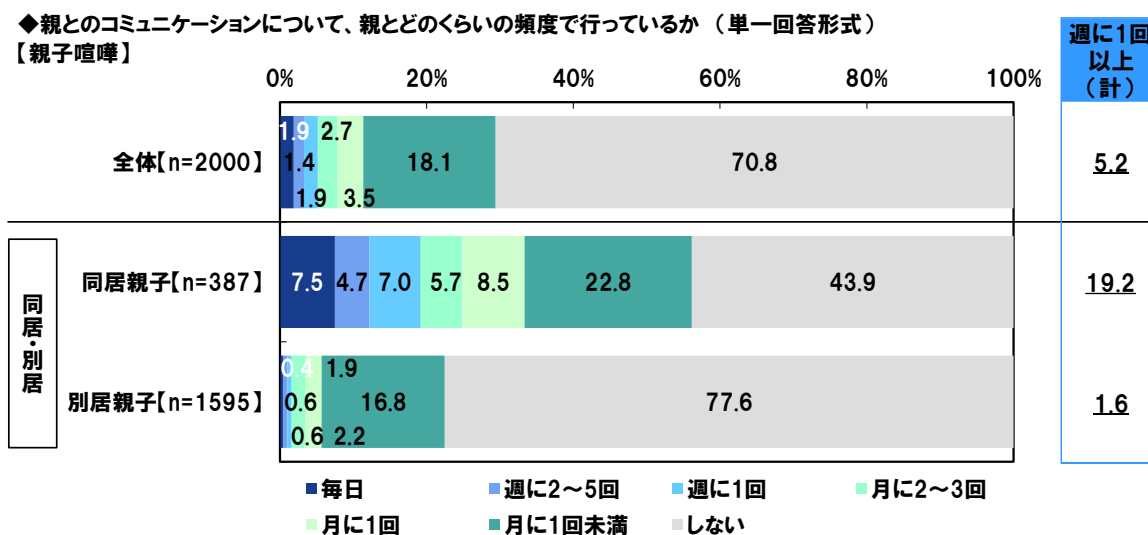
【一緒に旅行】



【親子喧嘩】では、「週に1回以上」は5.2%、「しない」は70.8%となりました。

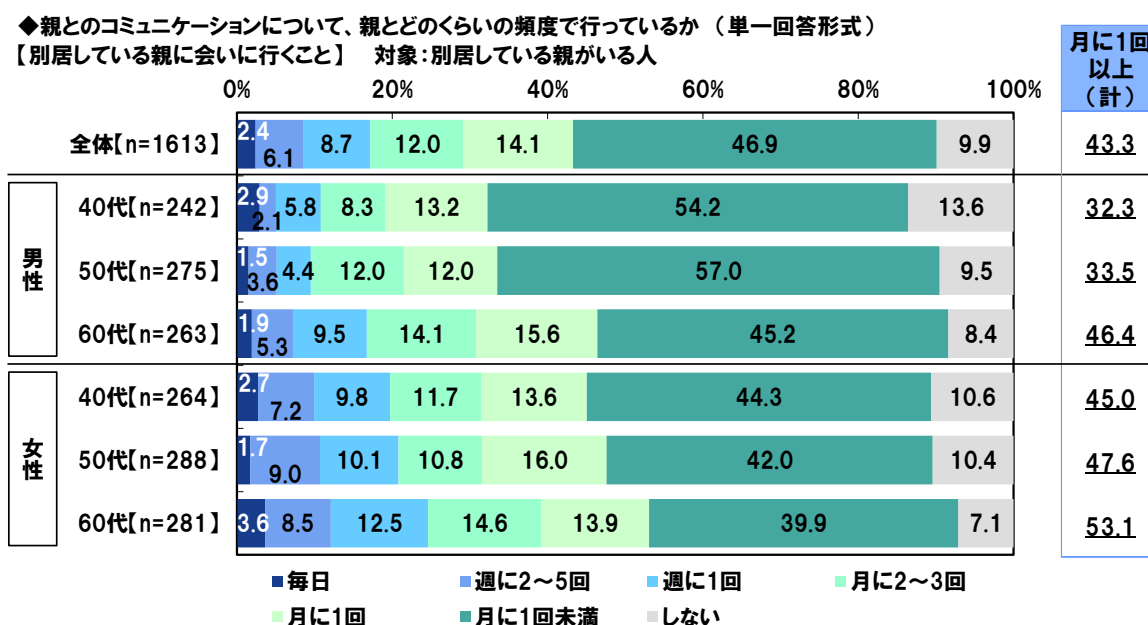
同居親子についてみると、「週に1回以上」は19.2%、「しない」は43.9%となりました。一緒に住んでいることで、些細なことがきっかけとなって親子喧嘩に発展しているケースが多いのではないのでしょうか。

他方、別居親子についてみると、「週に1回以上」は1.6%、「しない」は77.6%となりました。



別居している親がいる人（1,613名）に、【別居している親に会いに行く】頻度を聞いたところ、「月に1回以上」は43.3%で「月に1回未満」（46.9%）とほぼ同じ割合となり、会いに行かない人の割合（「しない」）は9.9%となりました。

男女・年代別にみると、「月に1回以上」と回答した人の割合は、いずれの年代でも男性と比べて女性の方が高く、60代女性では53.1%となりました。



■ 『おとなの親子』生活あるあるエピソード

男性の1位は「年齢を重ねて性格が似てきた」、女性の1位は「食の好みや好きな味付けが同じ」、「怒り口調が同じ」「口ぐせが同じ」「笑い方が似ている」なども上位に

続いて、親子の“生活あるある”について質問しました。

全回答者（2,000名）に、親にふだん接するなかで、“やはり親子だな”と感じることを聞いたところ、1位「食の好みや好きな味付けが同じ」（14.7%）、2位「年齢を重ねて性格が似てきた」（14.5%）、3位「年齢を重ねて行動パターンが似てきた」（10.4%）となりました。親子で一緒に時間を過ごすなかで、食の嗜好や性格、行動パターンがそっくりだと感じるシーンがある人が多いようです。

また、「怒り口調が同じ」（8.8%）や「口ぐせが同じ」（8.0%）、「笑い方が似ている」（5.1%）など感情表現や言葉遣い、物事の感じ方などに関する“あるある”も上位に挙がりました。

男女別にみると、男性では「年齢を重ねて性格が似てきた」（13.3%）が1位となり、女性では「食の好みや好きな味付けが同じ」（18.8%）が1位でした。

◆親にふだん接するなかで、“やはり親子だな”と感じること（複数回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		%
1位	食の好みや好きな味付けが同じ	14.7
2位	年齢を重ねて性格が似てきた	14.5
3位	年齢を重ねて行動パターンが似てきた	10.4
4位	年齢を重ねて生活習慣が似てきた	10.3
5位	年齢を重ねて価値観や人生観が似てきた	8.8
	怒り口調が同じ	8.8
7位	口ぐせが同じ	8.0
8位	得意なこと・苦手なことが同じ	5.4
9位	笑い方が似ている	5.1
10位	笑うツボが同じ	4.4

男性[n=1000]

		%
1位	年齢を重ねて性格が似てきた	13.3
2位	食の好みや好きな味付けが同じ	10.5
3位	年齢を重ねて行動パターンが似てきた	9.4
4位	年齢を重ねて生活習慣が似てきた	9.2
5位	年齢を重ねて価値観や人生観が似てきた	8.3
6位	怒り口調が同じ	7.2
7位	口ぐせが同じ	6.9
8位	得意なこと・苦手なことが同じ	5.6
9位	笑い方が似ている	4.7
10位	笑うツボが同じ	3.1
	趣味が同じ	3.1

女性[n=1000]

		%
1位	食の好みや好きな味付けが同じ	18.8
2位	年齢を重ねて性格が似てきた	15.7
3位	年齢を重ねて行動パターンが似てきた	11.4
4位	年齢を重ねて生活習慣が似てきた	11.3
5位	怒り口調が同じ	10.3
6位	年齢を重ねて価値観や人生観が似てきた	9.2
7位	口ぐせが同じ	9.0
8位	笑うツボが同じ	5.7
9位	笑い方が似ている	5.6
10位	得意なこと・苦手なことが同じ	5.2

■親に言われた忘れられない言葉とそのシチュエーションとは？ 愛情あふれる言葉が多数

親からもらった数々の言葉のなかで、心に残っているのはどのような言葉なのでしょう。

これまでに親から言われた言葉のうち、“忘れられない言葉”を聞いたところ、「迷うくらいならやりなさい -部活を続けるか悩んでいたとき-」「頑張りすぎないように -結婚したとき-」「最善を尽くせ -途中で投げ出そうとしたとき-」といったアドバイス、「大丈夫、なんとかなる -子どものことで悩んでいたとき-」「元気であるだけでいいから -落ち込んで帰省したとき-」といった励まし・応援が多くみられました。

落ち込んでいたときや困難にぶつかったときに、親からもらった“背中を押してもらえる言葉や、優しく包み込んでくれる言葉”が心に残っている人が多いのではないのでしょうか。

また、「産まれてきてくれてありがとう -誕生日に-」といった感謝の言葉、「無理しなくてもいい -会社を辞めようか悩んでいたとき-」「代わってあげたい -体調を崩し入院したとき-」といった気遣い・労わり・愛情の言葉、「お前はすごい -仕事での頑張りを聞いたとき-」「どこに出しても恥ずかしくない人間になった -遺言に-」といった我が子を誇らしく思う言葉や誉め言葉などもみられました。

◆これまでに親から言われた言葉のうち、“忘れられない言葉”/その言葉を言われたシチュエーション(状況) (各自由回答形式) ※抜粋して表示

《アドバイス》

- ・なるようになる -落ち込んでいたとき- (50代男性)
- ・迷うくらいならやりなさい -部活を続けるか悩んでいたとき- (40代女性)
- ・頑張りすぎないように -結婚したとき- (50代女性)
- ・最善を尽くせ -途中で投げ出そうとしたとき- (40代男性)
- ・相手の気持ちになって考えなさい
-友人関係に悩んでいたとき- (40代女性)
- ・自分を大切にいなさい -初めて恋人ができたとき- (50代女性)
- ・自由には責任が伴う -進学したとき- (40代男性)

《励まし・応援》

- ・大丈夫、なんとかなる -子どものことで悩んでいたとき- (50代女性)
- ・焦らなくていい -困難にぶつかっていたとき- (40代男性)
- ・自分を信じろ -受験で挫けそうになっていたとき- (60代男性)
- ・好きにやれ -進路を迷っていたとき- (40代男性)
- ・元気であるだけでいいから -落ち込んで帰省したとき- (50代男性)
- ・いつでも戻ってこい -上京するとき- (50代男性)
- ・あんたならできる -受験することを決めたとき- (50代女性)

《感謝》

- ・ありがとう -家の手伝いをしたとき- (60代女性)
- ・いつもありがとう -会いに行ったとき- (60代男性)
- ・一緒にいてくれて良かった -病院の診察に付き添ったとき- (50代女性)
- ・産まれてきてくれてありがとう -誕生日に- (50代女性)

《気遣い・労わり・愛情》

- ・今は休みなさい -無理して仕事に行っていたとき- (40代女性)
- ・無理しなくてもいい -会社を辞めようか悩んでいたとき- (50代男性)
- ・何してる？ -しばらく会っていないときに電話で- (50代男性)
- ・代わってあげたい -体調を崩し入院したとき- (50代女性)
- ・産んでよかった -誕生日に- (40代女性)

《我が子を誇らしく思う言葉・誉め言葉》

- ・自慢の娘だ -ごはんやお菓子を振る舞ったとき- (60代女性)
- ・お前はすごい -仕事での頑張りを聞いたとき- (40代男性)
- ・この子は性根が優しいから -妻を初めて実家に連れていったとき- (40代男性)
- ・どこに出しても恥ずかしくない人間になった -遺言に- (40代男性)
- ・頑張りの賜物だね -孫の成長した写真を見せたとき- (50代男性)
- ・笑顔が良いね -落ち込んでいたとき- (40代女性)

《祝福》

- ・喜びが込み上げてくるよ -就職が決まったとき- (40代男性)
- ・合格おめでとう -大学に合格したとき- (40代男性)

《親の願望》

- ・また、帰っておいで -帰省したとき- (40代男性)
- ・俺より先に死ぬな -日常の会話で- (50代男性)
- ・後のことをお願いね -高齢になり病気がちになって- (60代女性)
- ・お葬式は簡単でいい -施設に入所するとき- (60代女性)

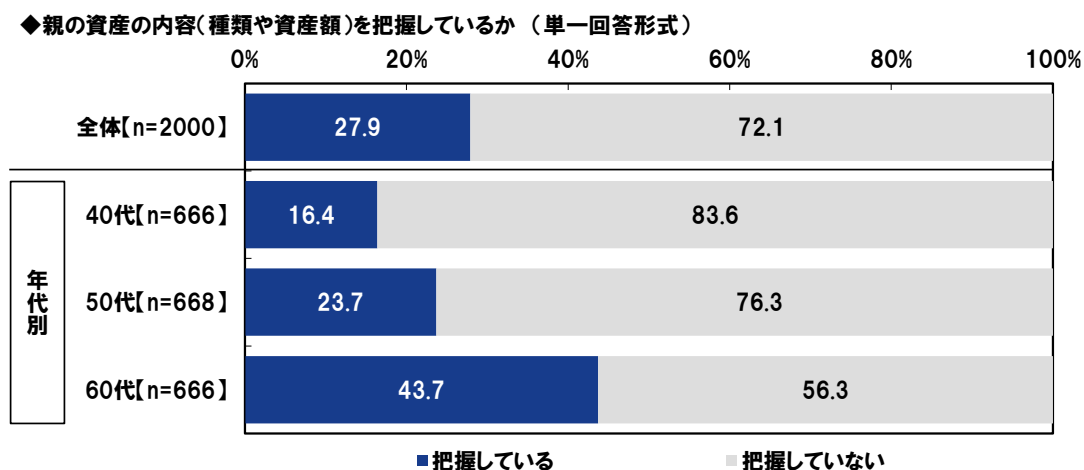
第2章：お金に関する意識・実態

■「親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない」7割強、40代の子では8割強に

■親の資産の内容を知らない理由 1位「聞きづらい」、60代では「きょうだいに任せている」が1位

全回答者（2,000名）に、親の資産の内容（種類や資産額）を把握しているかを聞いたところ、「把握している」は27.9%、「把握していない」は72.1%となりました。

年代別にみると、「把握していない」と回答した人の割合は若い年代ほど高くなる傾向がみられ、40代では83.6%となりました。60代では「把握していない」は56.3%となり、60代以降、情報共有が急速に進む実状がうかがえます。

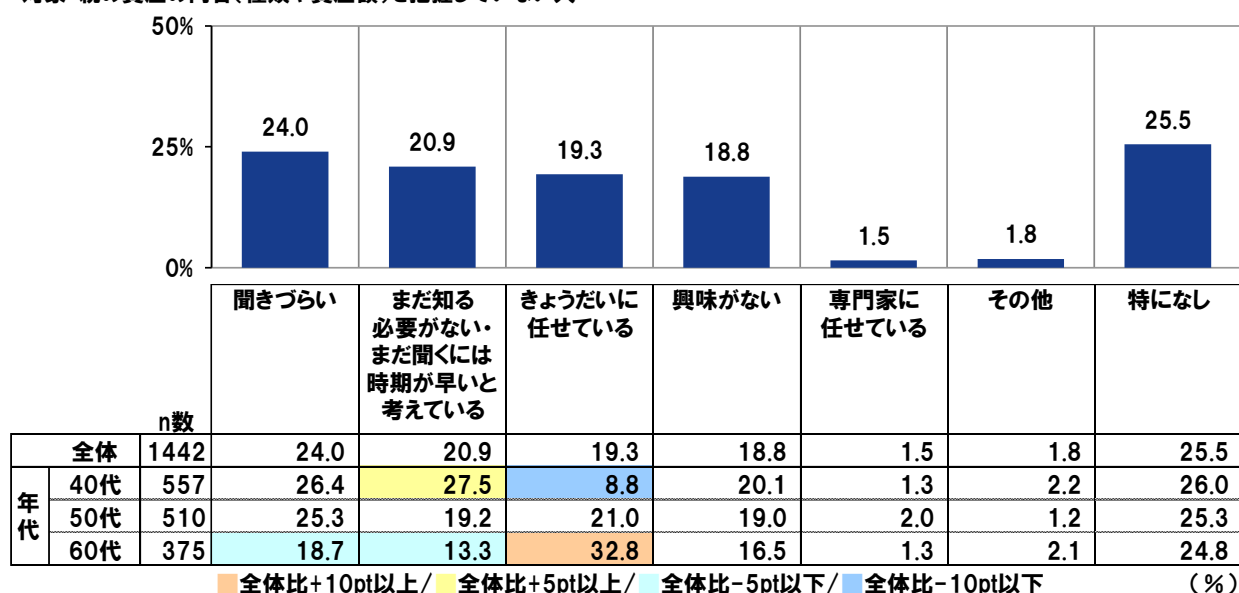


親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない人（1,442名）に、その理由を聞いたところ、1位は「聞きづらい」（24.0%）でした。自分の親とはいえ、お金のこととなると気軽に聞けないと感じる人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「まだ知る必要がない・まだ聞くには時期が早いと考えている」（20.9%）、3位「きょうだいに任せている」（19.3%）となりました。

年代別にみると、40代では「まだ知る必要がない・まだ聞くには時期が早いと考えている」（27.5%）が1位となり、60代では「きょうだいに任せている」（32.8%）が1位でした。

◆親の資産の内容を知らない理由(複数回答形式)

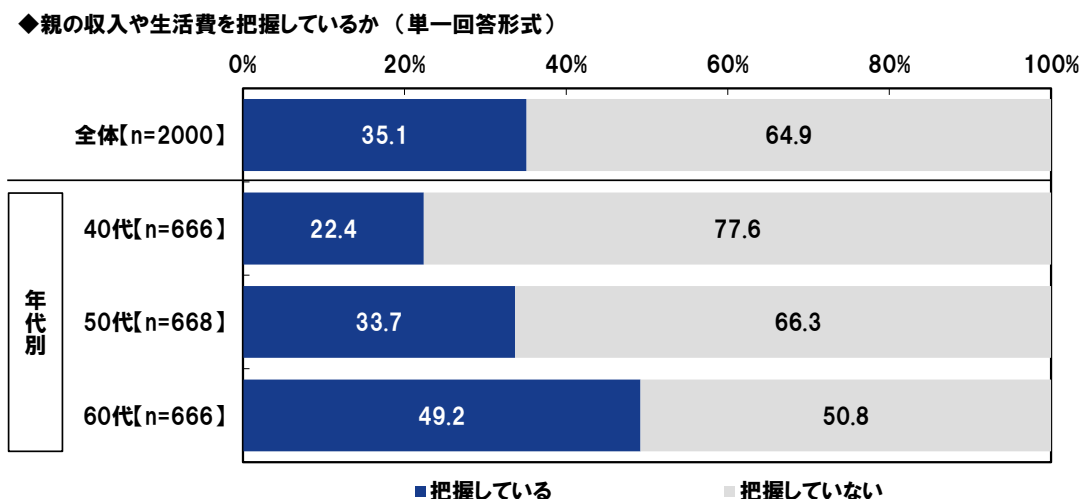
対象：親の資産の内容(種類や資産額)を把握していない人



- 「親の収入や生活費を把握していない」 6割半、40代の子では約8割、他方、60代では半数が把握
- 「自分の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えていない」 8割半

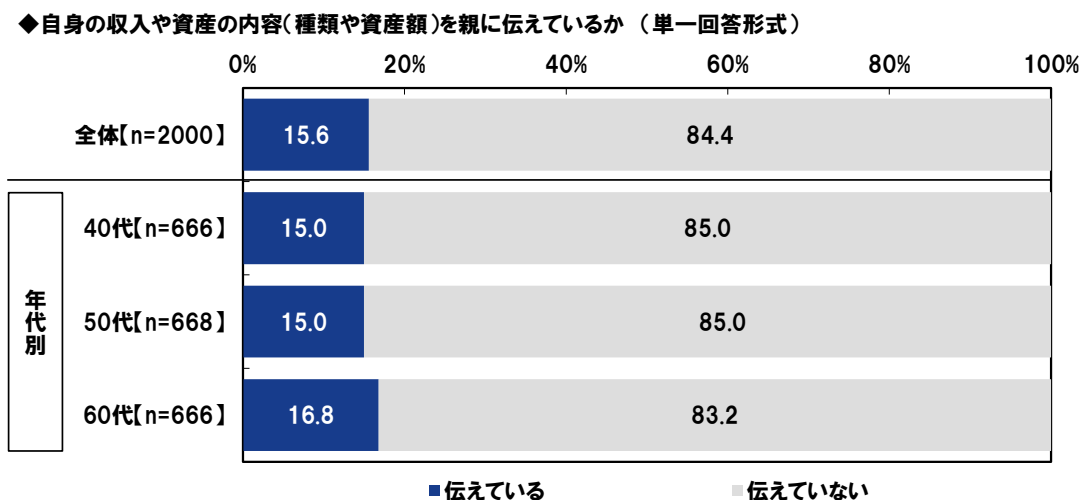
全回答者（2,000名）に、親の収入や生活費を把握しているかを聞いたところ、「把握している」は35.1%、「把握していない」は64.9%となりました。親の資産の内容と同様、親の収入や生活費についても把握している人は少数派となりました。

年代別にみると、「把握していない」と回答した人の割合は、40代では77.6%となった一方、60代では「把握していない」は50.8%となり、60代の半数が親の家計実態をある程度把握しているようです。



また、自身の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えているかを聞いたところ、「伝えている」は15.6%、「伝えていない」は84.4%となりました。

『おとなの親子』の間では、マネー関連の情報共有のハードルが高いようですが、子の年齢が60代となる時期以降は、介護の準備や相続対策のためか、子が親のマネー事情について把握する機会が増えるのではないのでしょうか。



■ お金にまつわる親子関係 「親から金銭面の支援を受けたことがある」4割半

支援を受けたことがあるもの 1位「結婚費用」2位「生活費」3位「不動産購入時の頭金」
 実際の支援額（平均）は「結婚費用」132万円、「生活費」143万円、

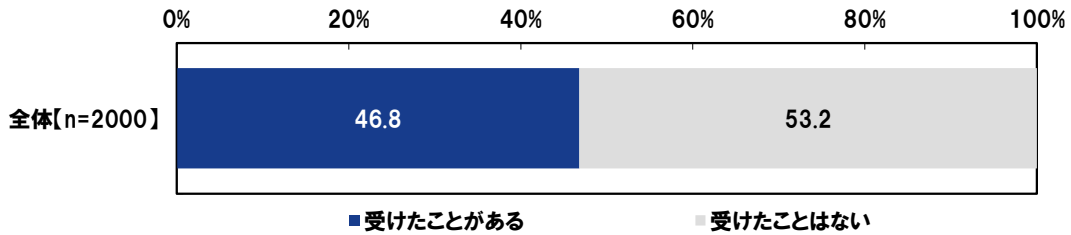
「不動産購入時の頭金」495万円、「自動車購入時の頭金」131万円、「子どもの教育資金」175万円

■ 「親に金銭面の支援をしたことがある」2割半

親子間の金銭面の支援について質問しました。

これまでに、親から金銭面の支援を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」は46.8%、「受けたことはない」は53.2%となりました。

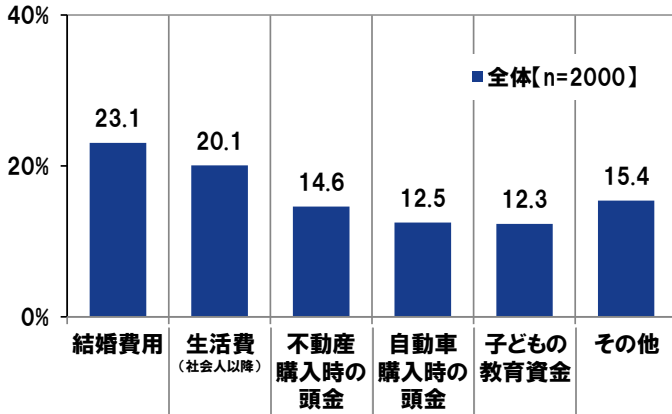
◆これまでに、親から金銭面の支援を受けたことがあるか（単一回答形式）



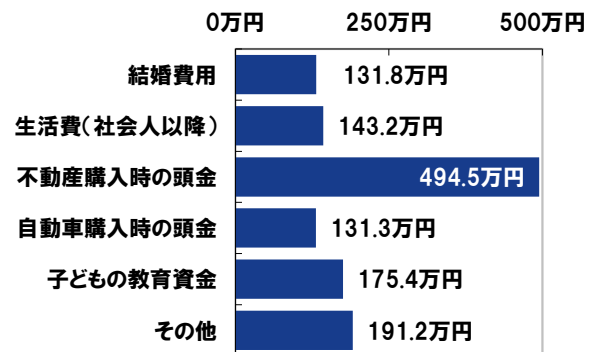
親から金銭面の支援を受けたことがあるものを聞いたところ、「結婚費用」（23.1%）が最も高くなり、「生活費（社会人以降）」（20.1%）、「不動産購入時の頭金」（14.6%）、「自動車購入時の頭金」（12.5%）、「子どもの教育資金」（12.3%）と続きました。

支援額の平均（受けたことがある人）をみると、「結婚費用」は131.8万円、「生活費（社会人以降）」は143.2万円、「不動産購入時の頭金」は494.5万円、「自動車購入時の頭金」は131.3万円、「子どもの教育資金」は175.4万円でした。

◆親から金銭面の支援を受けたことがあるもの



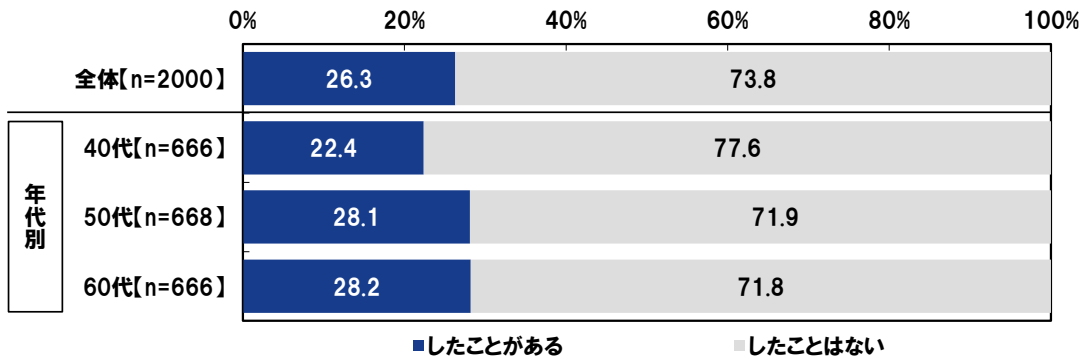
◆これまでに親から受けたことがある支援額の平均（自由回答形式：数値/___万円くらい）
 ※受けたことがある人の平均を表示



他方、全回答者（2,000名）に、これまでに、親に金銭面の支援をしたことがあるかを聞いたところ、「したことがある」は26.3%、「したことはない」は73.8%となりました。

年代別にみると、「したことがある」と回答した人の割合は、50代では28.1%、60代では28.2%と、40代（22.4%）と比べて5ポイント以上高くなりました。

◆これまでに、親に金銭面の支援をしたことがあるか（単一回答形式）



第3章：親の介護についての不安

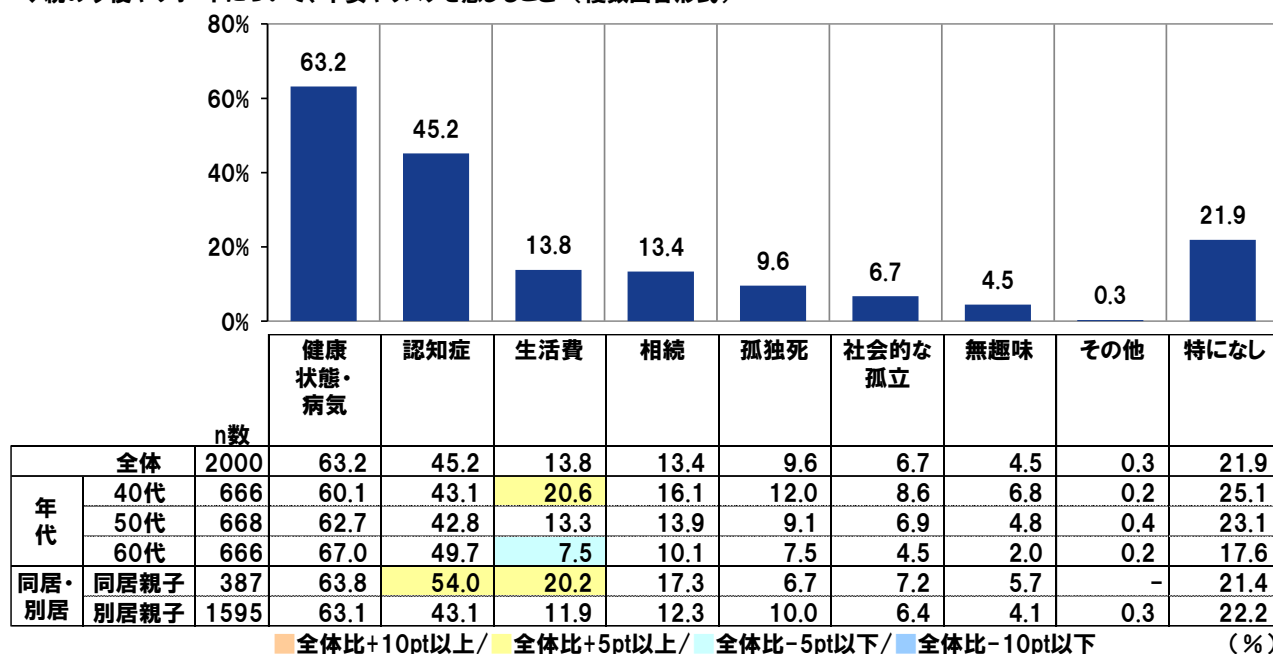
■親の今後やサポートについて不安やリスクを感じること 1位「健康状態・病気」

親の将来や介護について質問しました。

まず、全回答者（2,000名）に、親の今後やサポートについて、不安やリスクを感じることを聞いたところ、「健康状態・病気」（63.2%）が突出して高くなりました。次いで高くなったのは、「認知症」（45.2%）、「生活費」（13.8%）、「相続」（13.4%）、「孤独死」（9.6%）でした。

同居親子と別居親子を比較すると、同居親子では「認知症」が54.0%、「生活費」が20.2%と、別居親子（順に43.1%、11.9%）と比べて10ポイント前後高くなりました。

◆親の今後やサポートについて、不安やリスクを感じること（複数回答形式）



■親の介護で不安なことは？ 1位「精神的負担」2位「体力的負担」3位「介護と仕事の両立」

次に、親の介護について、不安を感じることを聞いたところ、1位「精神的負担」(27.8%)、2位「体力的負担」(26.7%)、3位「介護と仕事の両立」(22.6%)、4位「介護に関する情報や知識が足りない」(20.1%)、5位「介護費用が足りない」(18.3%)となりました。

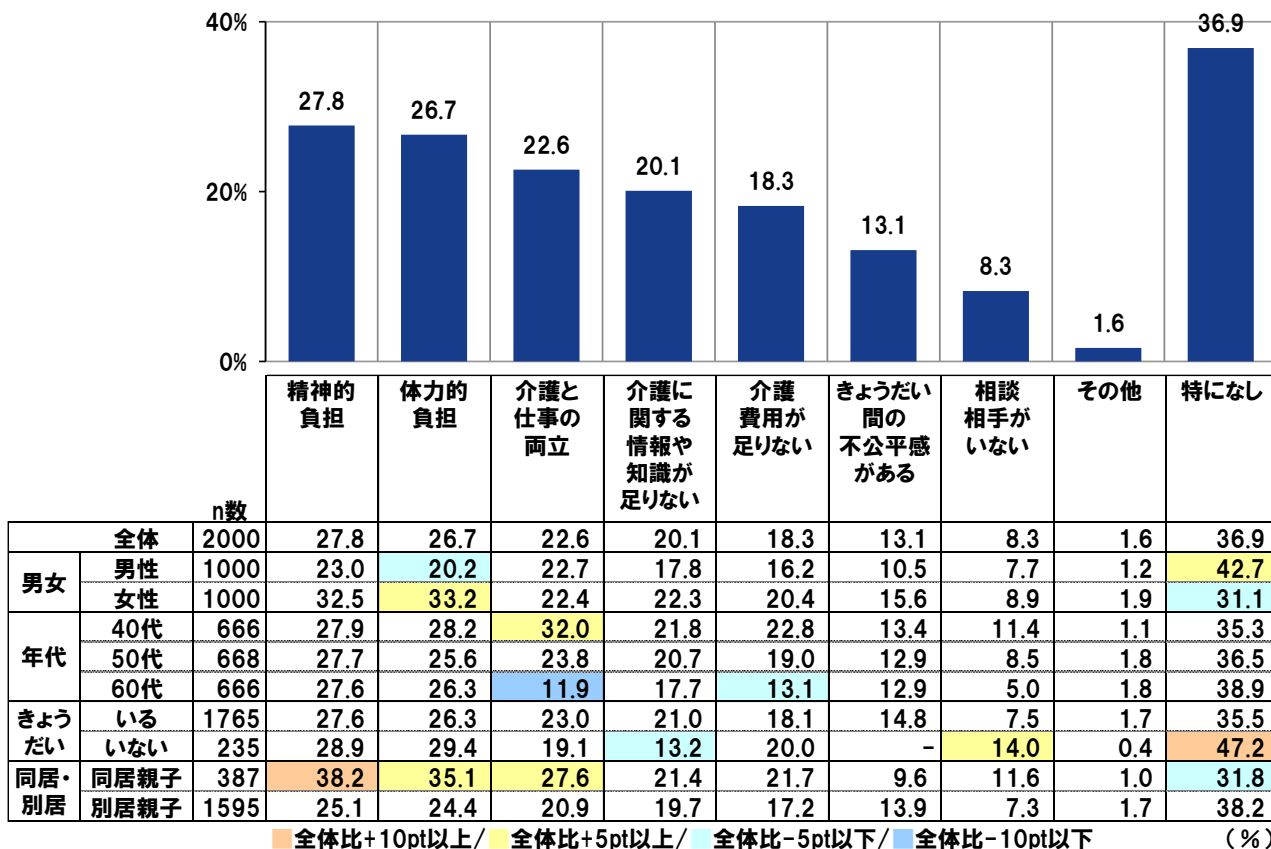
男女別にみると、女性では「体力的負担」が33.2%と、男性(20.2%)と比べて13.0ポイント高くなりました。

年代別にみると、40代では「介護と仕事の両立」が32.0%と、全体と比べて5ポイント以上高くなりました。

きょうだいの有無別にみると、きょうだいがいない人では「相談相手がない」が14.0%と、全体と比べて5ポイント以上高くなりました。

同居親子と別居親子を比較すると、同居親子では「精神的負担」が38.2%、「体力的負担」が35.1%と、別居親子(順に25.1%、24.4%)と比べて10ポイント以上高くなりました。

◆親の介護について、不安を感じること(複数回答形式)

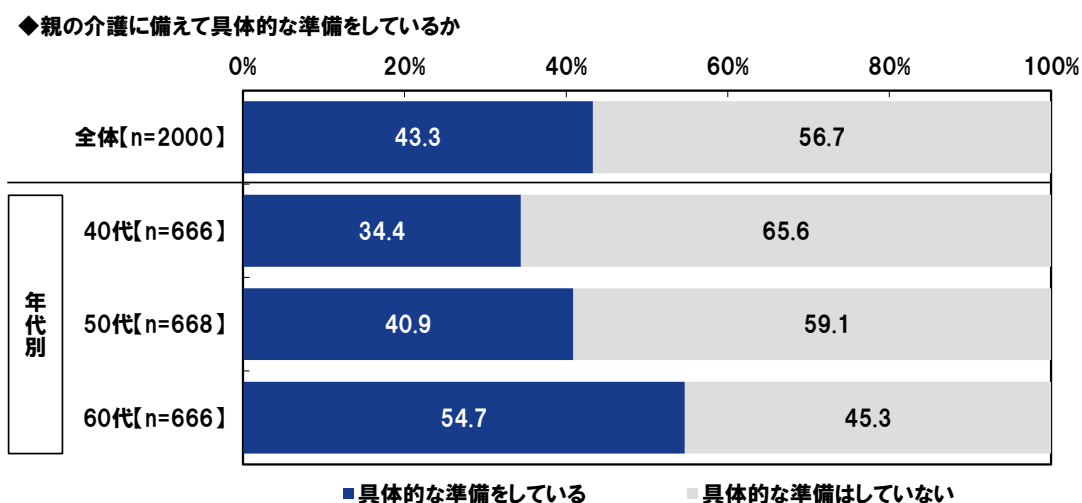


■「親の介護に備えて具体的な準備をしている」40代の子では3割半、60代の子では5割半に具体的に行っていることは？ 1位「きょうだい間での話し合い」2位「親の希望の確認」

続いて、介護の備えや準備について質問しました。

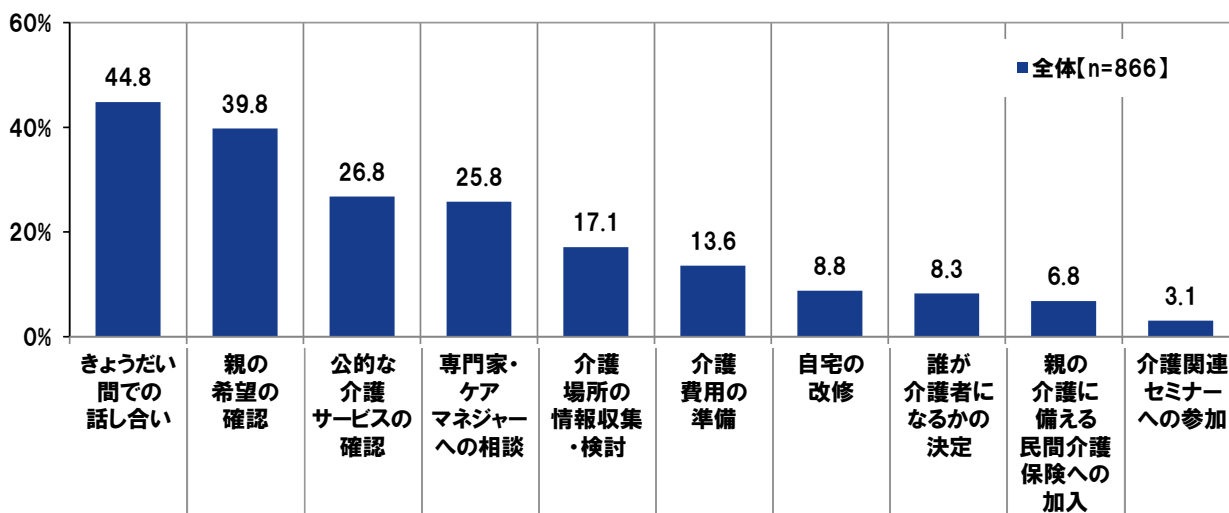
親の介護に備えて具体的な準備をしているかを聞いたところ、「具体的な準備をしている」は43.3%、「具体的な準備はしていない」56.7%となりました。

年代別にみると、「具体的な準備をしている」と回答した人の割合は、40代（34.4%）と50代（40.9%）では半数を大きく下回りましたが、60代（54.7%）では半数を超え、60代以降、具体的な準備に迫られるケースが急速に増える実状がうかがえます。



親の介護に備えて具体的に準備している人（866名）に、具体的に準備していることを聞いたところ、「きょうだい間での話し合い」（44.8%）が最も高くなり、「親の希望の確認」（39.8%）、「公的な介護サービスの確認」（26.8%）が続きました。また、「専門家・ケアマネジャーへの相談」（25.8%）や「親の介護に備える民間介護保険への加入」（6.8%）などが上位に挙がりました。介護の専門家などに相談する機会を活用する人や、保険に加入することで将来のリスクに備える人も少なくないようです。

◆親の介護に備えて具体的に準備していること（複数回答形式）※上位10位までを表示
対象：親の介護に備えて具体的に準備している人



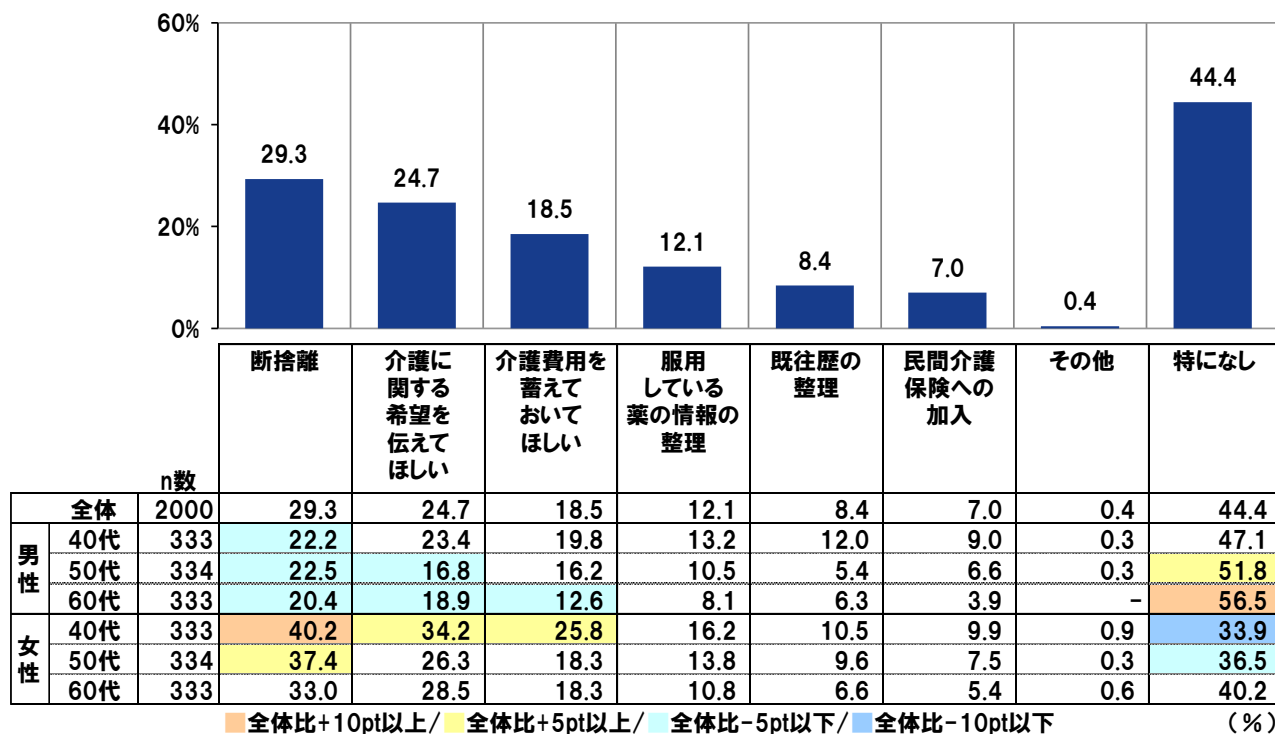
■親の介護について、事前に親に準備しておいてほしいこと

1位「断捨離」2位「介護に関する希望を伝えてほしい」3位「介護費用を蓄えておいてほしい」

また、全回答者（2,000名）に、親の介護について、事前に親に準備しておいてほしいことを聞いたところ、1位「断捨離」（29.3%）、2位「介護に関する希望を伝えてほしい」（24.7%）、3位「介護費用を蓄えておいてほしい」（18.5%）となりました。

男女・年代別にみると、40代女性では「断捨離」が40.2%と、全体と比べて10ポイント以上高くなりました。

◆親の介護について、事前に親に準備しておいてほしいこと（複数回答形式）



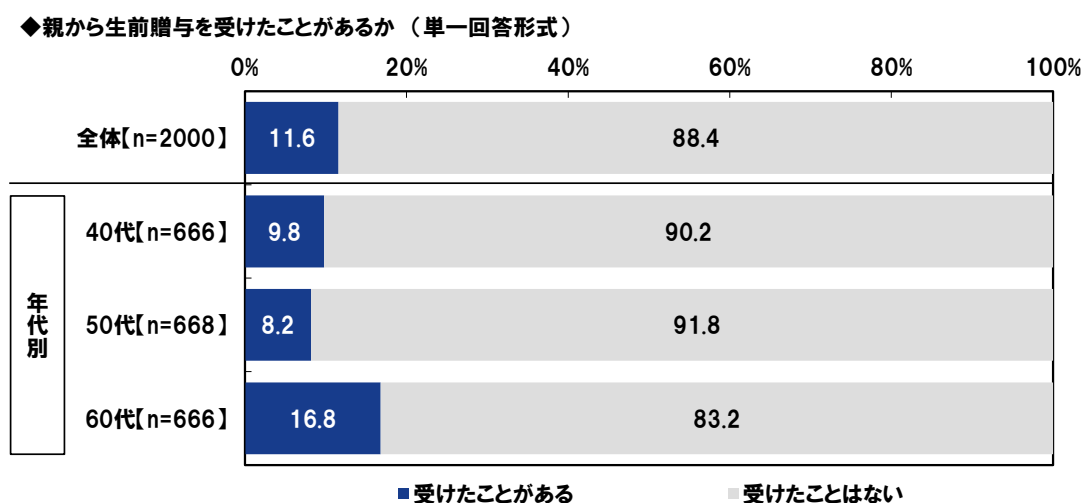
第4章：親からの贈与・相続に関する意識・実態

- 「親から生前贈与を受けたことがある」 40代・50代では1割未満、60代では1割半に
- 「親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがある」
40代・50代では1割半、60代では2割強に

親からの贈与や相続について質問しました。

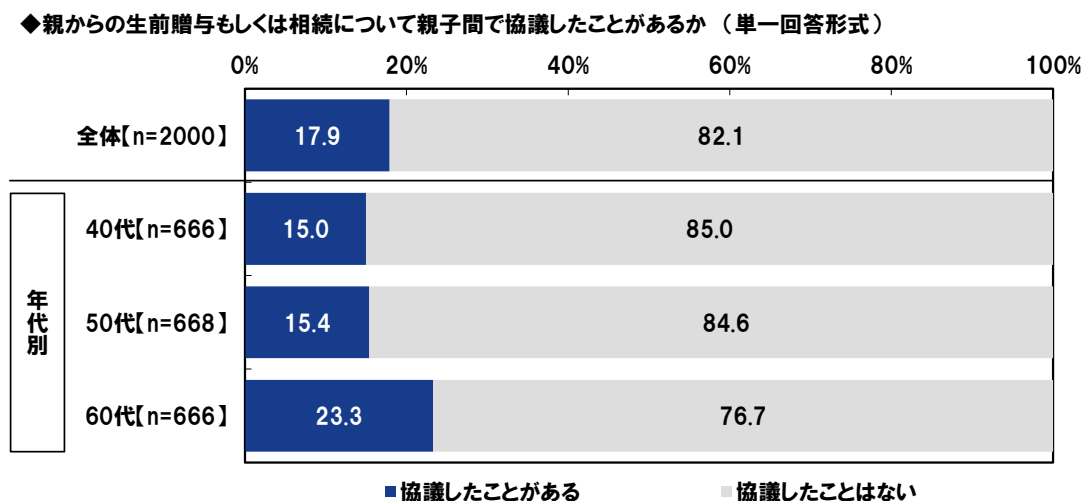
全回答者（2,000名）に、親から生前贈与を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」は11.6%、「受けたことはない」は88.4%となりました。

年代別にみると、受けたことがあると回答した人の割合は、60代では16.8%と、40代（9.8%）、50代（8.2%）と比べて5ポイント以上高くなりました。



親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがあるかを聞いたところ、「協議したことがある」は17.9%、「協議したことはない」は82.1%となりました。

年代別にみると、協議したことがあると回答した人の割合は、60代では23.3%と、40代（15.0%）、50代（15.4%）と比べて5ポイント以上高くなりました。自身が還暦を迎える時期を境に、生前贈与や相続に対する意識が高まっていることがうかがえる結果となりました。

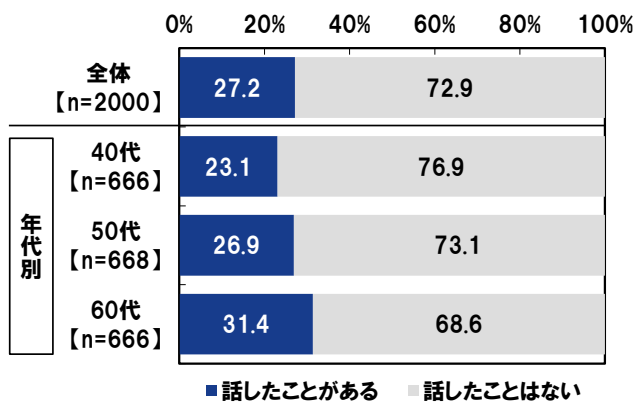


- 「万が一のときを考え、親と遺産について話したことがある」3割弱にとどまる
- 「きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ない」約4割
- 「親の資産が分割しづらい自宅などに偏っている」2割半
- 「親の遺言の内容を知っている」約1割にとどまる

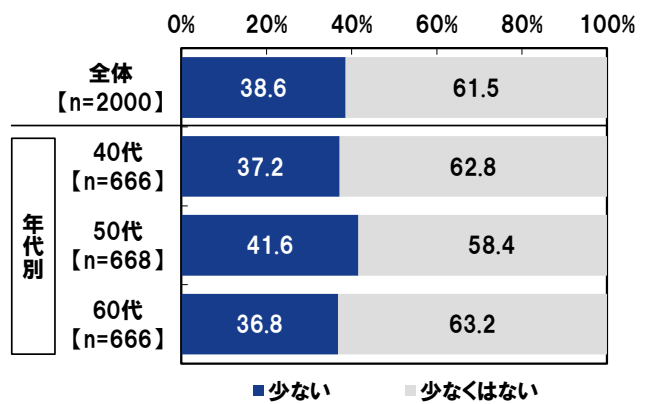
万が一のときを考え、親と遺産について話したことがあるかを聞いたところ、「話したことがある」は27.2%、「話したことはない」は72.9%となり、年代別（40代23.1%、50代26.9%、60代31.4%）ではどの年代においても話したことがある人が少数派でした。

きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ないかを聞いたところ、「少ない」は38.6%、「少なくはない」は61.5%となりました。

◆万が一のときを考え、親と遺産について話したことがあるか（単一回答形式）



◆きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ないか（単一回答形式）



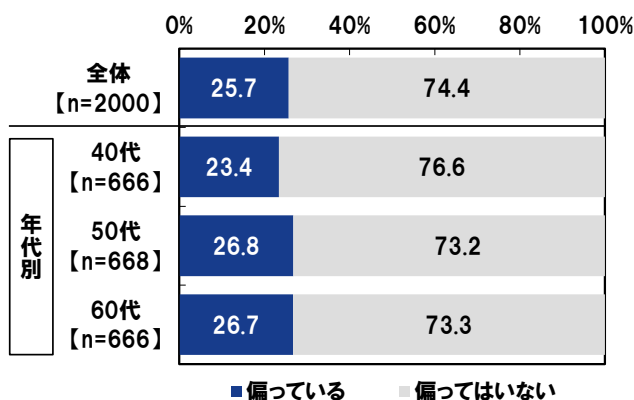
親の資産が分割しづらい自宅などに偏っているかを聞いたところ、「偏っている」は25.7%、「偏ってはいない」は74.4%となりました。

親の遺言の内容を知っているかを聞いたところ、「知っている」は11.0%、「知らない」は89.0%となりました。

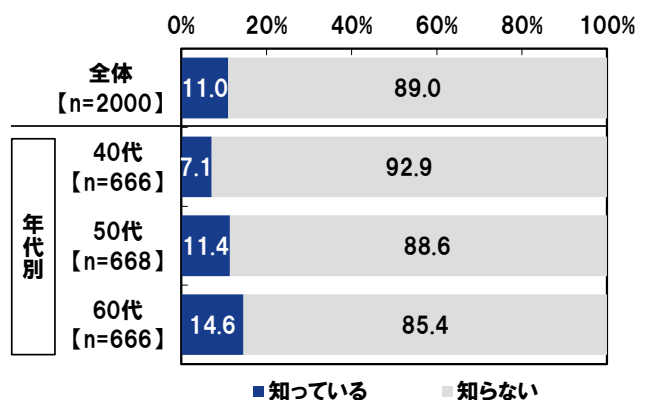
以上の通り、相続の際に「争族」(※)を招きやすい状況や、「争族」の火種になりそうな状況があることをうかがい知れる結果となりました。

※遺産相続を巡り親族などの相続人同士が争うこと

◆親の資産が分割しづらい自宅などに偏っているか（単一回答形式）



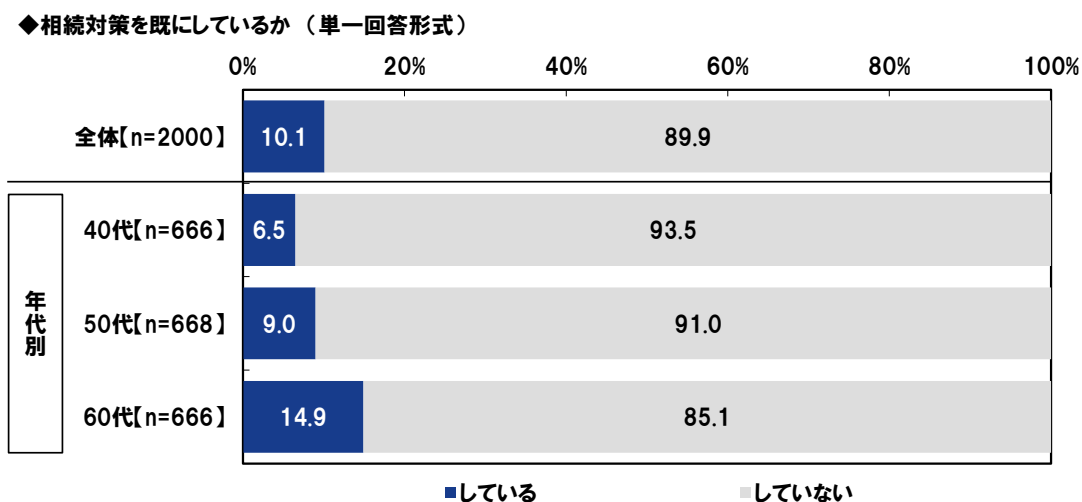
◆親の遺言の内容を知っているか（単一回答形式）



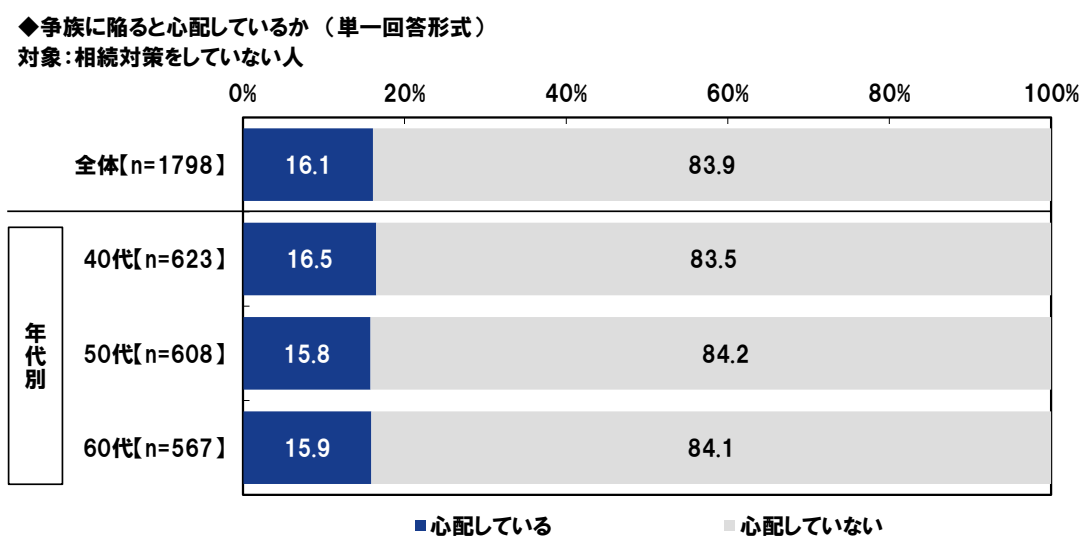
- 「相続対策を既に行っている」40代・50代では1割未満にとどまる
- 「争族に陥ると心配している」相続対策をしていない人の6人に1人

相続対策を既に行っているかを聞いたところ、「している」は10.1%、「していない」は89.9%と、大多数が相続対策に着手していない実状が明らかとなりました。

年代別にみると、既に行っていると回答した人の割合は、40代6.5%、50代9.0%、60代14.9%と、若い年代ほど低くなる傾向がみられ、60代でも7人に1人となりました。



相続対策をしていない人（1,798名）に、争族に陥ると心配しているかを聞いたところ、「心配している」は16.1%、「心配していない」は83.9%となりました。相続対策をしていない人のうち、争族に陥ると心配している人は6人に1人となり、争族リスクを感じていない人が大多数を占めました。



■親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいことは？

1位「親族間の十分なコミュニケーション」2位「遺言書の作成」3位「財産目録の作成」

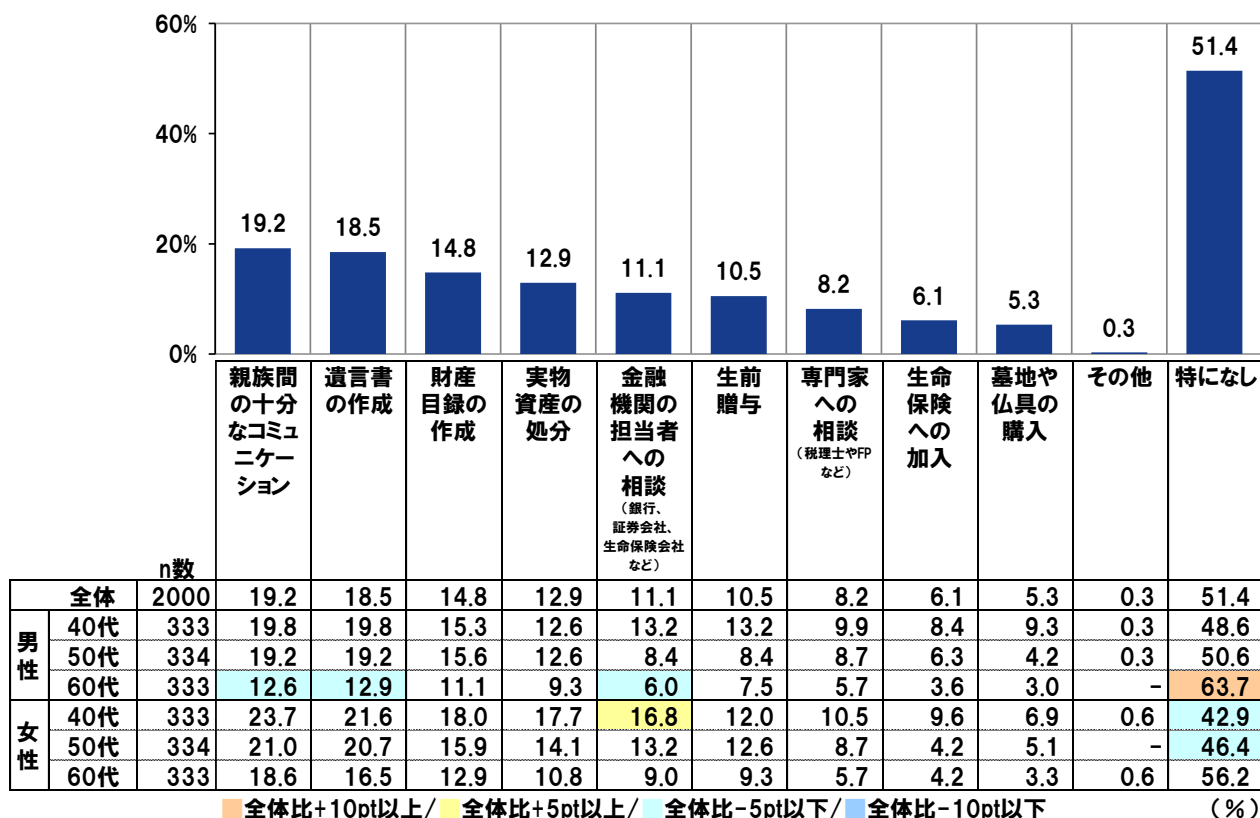
40代女性では「金融機関の担当者への相談」が高い傾向

では、相続に関する準備のうち、どのようなことをあらかじめ親に行っておいてほしいと思う人が多いのでしょうか。

全回答者（2,000名）に、親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいことを聞いたところ、1位は「親族間の十分なコミュニケーション」（19.2%）でした。争族にならないよう、親族間で事前にしっかりとコミュニケーションを行い、円満な相続になるための環境づくりをお願いしたいと思う人が多いようです。次いで、2位「遺言書の作成」（18.5%）、3位「財産目録の作成」（14.8%）、4位「実物資産の処分」（12.9%）、5位「金融機関の担当者への相談（銀行、証券会社、生命保険会社など）」（11.1%）となりました。

男女・年代別にみると、40代女性では「金融機関の担当者への相談（銀行、証券会社、生命保険会社など）」が16.8%と、全体と比べて5ポイント以上高くなりました。

◆親からの相続について、亡くなるまでに親に準備しておいてほしいこと（複数回答形式）



第5章：理想の『おとなの親子』

■実際の親子関係を表す漢字1字 1位「絆」2位「信」3位「愛」

自身の親子の関係を漢字で表すとしたら、どの漢字をイメージする人が多いのでしょうか。

まず、全回答者（2,000名）に、自身と自身の親の関係（親子関係）を表す漢字（1字）を聞いたところ、1位は「絆」でした。お互いが強い絆でつながっており、良好な親子関係を築けていると感じている人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「信」、3位「愛」、4位「良」、5位「血」となりました。

男女別にみると、男性・女性とも1位から4位までは同じ漢字が挙がり、男性では「和」が5位、女性では「友」が5位でした。

◆自身と自身の親の関係(親子関係)を表す漢字(1字) (自由回答形式)
※上位10位までを表示

全体【n=2000】

		名
1位	絆	203
2位	信	124
3位	愛	121
4位	良	112
5位	血	50
6位	友	46
7位	和	43
8位	縁	42
9位	心	41
10位	普	31

男性【n=1000】

		名
1位	絆	107
2位	信	69
3位	愛	54
4位	良	45
5位	和	21
6位	血	20
	心	20
8位	縁	17
9位	家	13
	普	13

女性【n=1000】

		名
1位	絆	96
2位	愛	67
	良	67
4位	信	55
5位	友	36
6位	血	30
7位	縁	25
8位	和	22
9位	心	21
10位	優	19

■理想の『おとなの親子』だと思う、芸能人親子

1位「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」2位「関根 勤さん&関根 麻里さん」

次に、理想の『おとなの親子』や理想の親をテーマに、イメージに合う有名人について質問しました。

自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子（1組）を聞いたところ、親子揃ってテレビ番組やイベントなどに出演することが多く、会話からも仲の良さが自然と伝わる「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」がトップとなり、2位「関根 勤さん&関根 麻里さん」、3位「ヒロミさん&小園 凌央さん」、4位「渡辺 謙さん&杏さん」、5位「明石家 さんまさん&IMALU さん」と続きました。

理想の芸能人親子として挙げた理由をみると、「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」では「何でも言い合える素敵な関係だと感じる」「精神的にもお互いに自立していそう」「見ているとほっこりする」、「関根 勤さん&関根 麻里さん」では「コミュニケーションが取れていて友達みたい」「お互いを思いやる優しさが溢れている」、「ヒロミさん&小園 凌央さん」では「仲が良く、信頼関係がありそう」「子どもが親を尊敬し、親が子どもを信頼していると感じる」といった回答がありました。

◆自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子(1組) (自由回答形式) ※上位10位までを表示
全体[n=2000]

	名	理由(抜粋)
1位	高橋 英樹&高橋 真麻	156 何でも言い合える素敵な関係だと感じる / 精神的にもお互いに自立していそう / 見ているとほっこりする
2位	関根 勤&関根 麻里	83 コミュニケーションが取れていて友達みたい / お互いを思いやる優しさが溢れている
3位	ヒロミ&小園 凌央	34 仲が良く、信頼関係がありそう / 子どもが親を尊敬し、親が子どもを信頼していると感じる
4位	渡辺 謙&杏	25 程良い距離感で、困ったときはお互いに助け合っている / こまめに連絡を取り合っている
5位	明石家 さんま&IMALU	18 それぞれが人生を楽しんでいるように感じる / つかず離れずの距離感が上手い
6位	藤岡 弘、&天翔 愛・藤岡 真威人・天翔 天音・藤岡 舞衣	17 お互いに思いやる心がみえる / 親子の信頼関係がよくできている
7位	榎原 郁恵&渡辺 裕太	16 お互いに助け合っている / 信頼し合っている感じがする
8位	三浦 友和&三浦 祐太郎・三浦 貴大	15 程良い距離感でお互いに自立している / お互いに尊重している感じがする
9位	アニマル 浜口&浜口 京子	13 尊敬し合っている / 本当に仲が良さそう
10位	松本 白鷗&松 たか子	11 お互いを尊重し合っているように思える / 家族の絆が深い

■ “理想の父親” 1位は「高橋 英樹さん」、 “理想の母親” 1位は「吉永 小百合さん」

“理想の父親” でイメージする有名人シニアを聞いたところ、フリーアナウンサー・高橋 真麻さんの父親で俳優の「高橋 英樹さん」が1位となり、2位「所 ジョージさん」、3位「三浦 友和さん」、4位「関根 勤さん」、5位「役所 広司さん」と続きました。

◆“理想の父親”でイメージする有名人シニア（自由回答形式）
※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	高橋 英樹	78
2位	所 ジョージ	77
3位	三浦 友和	44
4位	関根 勤	30
5位	役所 広司	22
6位	中村 雅俊	20
7位	加山 雄三	19
	明石家 さんま	19
9位	藤岡 弘、	15
10位	草刈 正雄	12

他方、“理想の母親” でイメージする有名人シニアを聞いたところ、映画やドラマで母親役を多く演じている「吉永 小百合さん」がダントツとなり、2位「松坂 慶子さん」、3位「榎原 郁恵さん」「風吹 ジュンさん」、5位「夏木 マリさん」と続きました。

◆“理想の母親”でイメージする有名人シニア（自由回答形式）
※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	吉永 小百合	164
2位	松坂 慶子	20
3位	榎原 郁恵	18
	風吹 ジュン	18
5位	夏木 マリ	12
6位	大竹しのぶ	9
	竹下 景子	9
8位	黒木 瞳	8
9位	宮崎 美子	7
10位	アグネス・チャン / 高畑 淳子 / 市毛 良枝 / 松田 聖子 / 上沼 恵美子 / 草笛 光子	5

■これからしたい親孝行 1位「旅行をする」2位「会いに行く・顔を見せる」3位「介護をする」

最後に、親孝行について質問しました。

これから親孝行としてしたいことを聞いたところ、1位は「旅行をする」でした。日頃の感謝の気持ちを込めて親子旅行をプレゼントしたいと考えている人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「会いに行く・顔を見せる」、3位「介護をする」、4位「話をする・話を聞く」、5位「一緒に食事をする・ご馳走する」となりました。

男女別にみると、男性・女性ともに「旅行をする」が1位、「会いに行く・顔を見せる」が2位となり、男性では「介護をする」、女性では「話をする・話を聞く」が3位に挙がりました。

◆これから親孝行としてしたいこと（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	旅行をする	333
2位	会いに行く・顔を見せる	273
3位	介護をする	83
4位	話をする・話を聞く	73
5位	一緒に食事をする・ご馳走する	66
6位	身の回りの世話・手伝いをする	52
7位	一緒に過ごす	51
8位	孫の顔を見せる・孫に会わせる	43
9位	同居する	31
10位	金銭的な援助をする	28

男性[n=1000]

		名
1位	旅行をする	157
2位	会いに行く・顔を見せる	110
3位	介護をする	39
4位	一緒に食事をする・ご馳走する	32
5位	身の回りの世話・手伝いをする	23
	孫の顔を見せる・孫に会わせる	23
	話をする・話を聞く	23
8位	金銭的な援助をする	17
9位	一緒に過ごす	15
10位	長生きする	13

女性[n=1000]

		名
1位	旅行をする	176
2位	会いに行く・顔を見せる	163
3位	話をする・話を聞く	50
4位	介護をする	44
5位	一緒に過ごす	36
6位	一緒に食事をする・ご馳走する	34
7位	身の回りの世話・手伝いをする	29
8位	孫の顔を見せる・孫に会わせる	20
	同居する	20
10位	帰省する	12
	健康でいる・元気である	12

注：本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がございます。
また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

- ◆調査タイトル：『おとなの親子』の生活調査 2023
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする
70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女
- ◆調査期間：2023年9月29日～10月2日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：2,000サンプル
(有効回答から性別×年代区分がほぼ均等になるように抽出)

(内訳)	40代	50代	60代
男性	333	334	333
女性	333	334	333

- ◆調査協力会社：ネットエイジア株式会社

■■会社概要■■

会社名：プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
代表者名：代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充
創業：2010年4月1日
本社所在地：東京都千代田区永田町 2-13-10
業務内容：生命保険業
(営業種目：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。